

<新規就農者の確保又は認定農業者の育成に取り組む事例>

## ○『農山村(ふるさと)応援し隊』サポーターとの協働活動

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	徳島県那賀郡那賀町 北川蔭			
協定面積 7.7ha	田(5%)	畑(95%)	草地	採草放牧地
	ケイトウ	ゆず		
交付金額 66万円	個人配分			42%
	共同取組活動 (58%)	水路・農道維持補修及び鳥獣害防護柵設置・補修		40%
		水路・農道・鳥獣害防護柵点検		2%
		事務費等		9%
鳥獣害対策のための積立			7%	
協定参加者	農業者 26人			開始：平成22年度

### 2. 取組に至る経緯

那賀郡那賀町木頭北川地区は高知県香美市と隣接する位置にある。そして徳島県のブランド品目である『ゆず』、その中でも一大銘柄である『木頭ゆず』の生産が主産業という山村である。

当地区では従前から、中山間地域等直接支払制度を実施したいという要望があったが、まとめ役となる者が不在であったため、第2期対策までは実施できなかった。しかし、今回当集落の代表がまとめ役を買って出たことにより、第3期対策から当制度を実施することとなった。

### 3. 取組の内容

当集落は、協定農用地の拡大、新規就農者の確保及び認定農業者の育成を目標に積極的に共同活動を行っており、対策期間中に全ての目標を達成する見込である。

しかし、中山間地域共通の問題である過疎化・高齢化の進行により、農業経営の継続が危ぶまれる高齢農業者をいかに支援するかが課題となっている。

そこで当集落では、徳島県ふるさと・水と土保全基金を財源とした『とくしま農山村(ふるさと)応援し隊事業』を活用し、農山村(ふるさと)を応援したい県内の大学生などのサポーターと、加工用ゆずの収穫や搾汁の協働活動や技術指導、交流などを実施した。



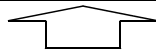
【北川蔭集落】



【収穫したゆずを囲むサポーター】

**【集落の将来像】**

○ 木頭ゆずを核とした農業所得の向上，後継者作りによる持続可能な農業生産活動体制整備

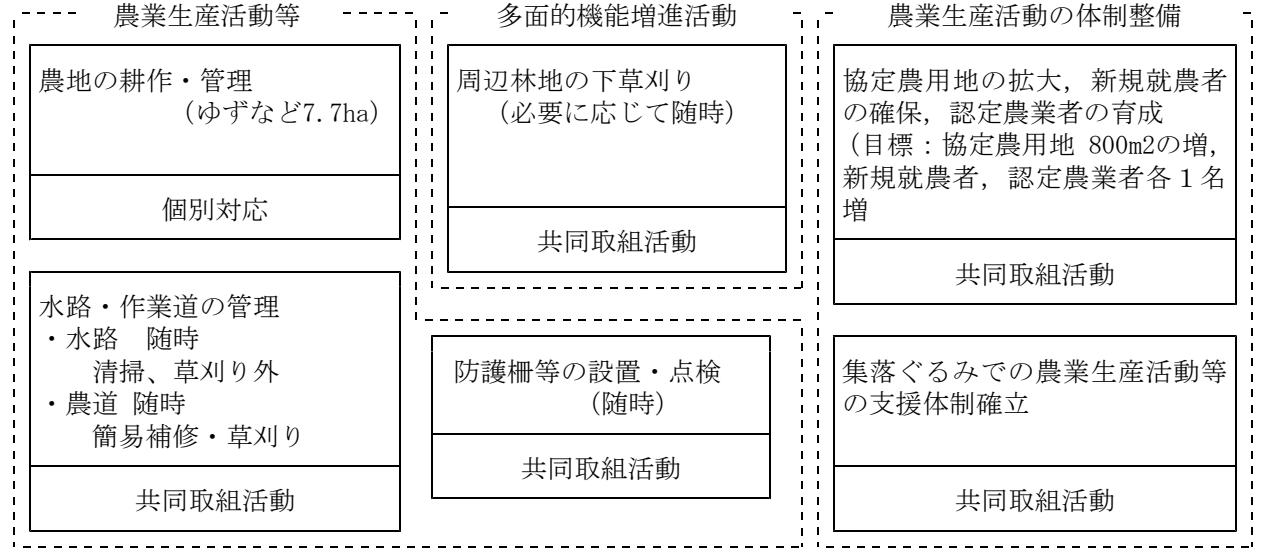


**【将来像を実現するための活動目標】**

○ 『農山村(ふるさと)応援し隊』サポーターとの協働活動の継続

○ 都市部の若者の地域への定着及び就農

**【活動内容】**



**集落外との連携**

○ 『とくしま農山村(ふるさと)応援し隊事業』サポーターとの協働によるゆずの収穫及び搾汁作業

**4. 今後の課題等**

『とくしま農山村(ふるさと)応援し隊事業』サポーターは、ゆず収穫の素人であるため、収穫は加工用ゆずに限られる。また、現状で協働活動が可能な作業は、集落側の配慮により、サポーターが楽しいと感じやすい収穫や搾汁作業に限定している。青果出荷する農業者がサポーターと協働したり、草刈りや鶏ふんの施肥などの地道な作業を協働するのは難しい。そのため、協働活動が可能な農業者とそうではない農業者との公平性への配慮から、この活動を中山間地域等直接支払制度における共同取組活動として位置付けていない。そのため今後は、草刈りなどの作業も協働し、当制度の共同取組活動として取組を継続するためのサポーターへの働きかけが必要となる。

将来的にはサポーターとの協働活動を通じ、農業、ゆず生産に関心を持った若者を1人でも多く地域に根付かせたい、と集落では考えている。そのためには『木頭ゆず』のブランド力向上、有利販売の推進による農業所得の向上を図るなど、ゆずづくりの魅力をもっと高める必要がある。